

島崎藤村「初恋」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

初恋

まだあげ初めし前髪アの

林檎のもとに見えしとき

前にさしたる花櫛イの

花ある君と思ひけりサ

やさしく白き手をのべて

林檎をわれにあたへしシは

薄紅ウの秋の実に

人スこひ初めしはじめなり

わがこころなきためいきの

その髪の毛にかかるとき

たのしき恋の盃エを

君が情オに酌カみしかな

林檎畠キの樹クの下に

おのづかセらなる細道は

誰ケが踏みそめしかたみぞと

問ソひたまふこそこひしけれ



問1 「初恋」の作者を漢字で答えなさい。

問2 「初恋」の詩の形式を漢字5文字で答えなさい。

問3 「初恋」の詩のリズムとして、適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：七五調
- イ：五七調
- ウ：七七調
- エ：自由律

問4 「まだあげ初めし前髪」の意味として適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：まだ結ったことがない前髪
- イ：結いはじめたばかりの前髪
- ウ：初めて結った前髪
- エ：結うことがむずかしい前髪

問5 「まだあげ初めし前髪」という言葉は、「君」のどのような様子を表現しているか。最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：大人っぽい様子
- イ：まだ幼い様子
- ウ：初々しい様子
- エ：恥ずかしがる様子



問6 「花ある君」の意味として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：花のように美しい君
- イ：花の髪飾りをつけている君
- ウ：花を手を持っている君
- エ：花を愛している君

問7 二人が出会ったのはどこか、詩の中から5字以内でそのまま抜き出して答えなさい。

問8 第二連で対比として使われている色を2つ、詩の中の言葉を抜き出して答えなさい。

問9 「白き手」とは、誰の手のことか。詩の中の言葉を抜き出して答えなさい。

問10 「薄紅の秋の実」とは、何のことか。詩の中の言葉を抜き出して答えなさい。

問11 「人こひ初めしはじめなり」の意味として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：はじめて林檎を手を持った人
- イ：秋のものがなしさに人恋しくなった
- ウ：初めて人に恋をした
- エ：はじめて林檎を持ってきてくれた人



問12 「ころなきためいき」の意味として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：思わずもれるためいき
- イ：あきれて出るためいき
- ウ：悲しみをこめたためいき
- エ：思いやりのないためいき

問13 「わがころなきためいき」にはどんな感情が表現されているか。適切なものを次の中から全て選びなさい。

- ア：恋心
- イ：喜び
- ウ：あきらめ
- エ：拒絶

問14 「たのしき恋の盃を君が情けに酌みしかな」の意味として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：君のおかげで恋に酔いしれる楽しさを知ることができた
- イ：恋という楽しいものを君が気遣って教えてくれた
- ウ：楽しいはずの恋だったが、君は受け入れてくれなかった
- エ：楽しい恋だと思っていたが、君は悲しんでいた

問15 「おのづからなる細道」の意味として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：もともとあった細道
- イ：自然とできた細道
- ウ：自然のままの細道
- エ：いつまでもある細道



問16 「問ひたまふ」とあるが、どのような状況か最も適切に説明しているものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：「われ」が「君」に問いかけている
- イ：「君」が「われ」に問いかけている
- ウ：「林檎島の樹」が「われ」に問いかけている
- エ：「われ」と「君」が細道に問いかけている

問17 「林檎島の樹の下」に「細道」が出来た理由を、「われ」・「君」・「林檎島」の言葉を使って説明しなさい。

問18 第四連からは、「君」のどのような様子を読み取れるか。最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：「われ」の行動の無責任さにいらだちを見せる「君」
- イ：「われ」と過ごした時を愛おしく思う「君」
- ウ：まだ知らないことが多くあどけない「君」
- エ：「われ」の思いを受け入れられないと悩む「君」

問19 「われ」の恋が実ったことを表現しているのは第何連か。漢数字で答えなさい。

問20 この詩の中で、「われ」の「恋をして切ない気持ち」が表現されている言葉を探し、11字で答えなさい。



問 2 1 赤線ア～ケまでの漢字の読みを書きなさい。ただし、歴史的仮名遣いが使われている部分は、歴史的仮名遣いで答えなさい。

【ア】

【イ】

【ウ】

【エ】

【オ】

【カ】

【キ】

【ク】

【ケ】

問 2 2 青線サ～ソの部分を現代仮名遣いになおして書きなさい。

【サ】

【シ】

【ス】

【セ】

【ソ】



## 作品名「作品」定期テスト対策練習問題（解答）

問1 島崎藤村

問2 文語定型詩

【解説】「初恋」は「…思ひけり」のように、昔の書き言葉で作られているので、文語である。文字数も、「7音」と「5音」の決められた繰り返しになっているので、「定型」である。よって、文語+定型で「文吾定型詩」である。

問3 ア

【解説】「まだあげそめし（7音）」「まえがみの（5音）」のように、7音と5音の繰り返しなので、七五調である。

問4 イ

【解説】「初恋」が書かれた明治時代では、女性は12歳くらいになると髪を結い上げていた。「きみ」が大人の女性の仲間入りになって、髪を結いはじめたばかりということの意味している。

問5 ウ

【解説】大人の女性の仲間入りとして、髪を結いあげはじめたばかりということは、まだ大人になりたての初々しいという様子をあらわしている。

問6 ア

【解説】「きみ」が前髪にさしている櫛の花飾りのように、「きみ」がまるで花のように感じられた＝「きみ」をまるで花のように美しいと思ったという意味が最も正しい。



## 問7 林檎のもと

【解説】「林檎のもとに見えしとき」とは、林檎のもとに君の姿が見えたということなので、二人が出会ったのは「林檎のもと」である。

## 問8 白・薄紅 ※順不同

【解説】「君の白い手」と林檎の「薄紅」を対比させて印象づけている。

## 問9 君

【解説】「花ある君」と答えても可。

## 問10 林檎

## 問11 ウ

【解説】「人こひ」は「人に恋をした」ということ。

## 問12 ア

【解説】「こころなき」とは、「ふとしたとき、思わず」という意味。現代で使われている「こころない」のイメージから、「思いやりがない」と間違えないように注意しよう。

## 問13 ア・イ

【解説】「われ」は、「きみ」に恋をした喜びで、ふと思わずためいきをもらしてしまうことを表しているので、「恋心」と「喜び」がふさわしい。「ためいき」のイメージから、否定的なものを選んでしまわないように注意しよう。



## 問14 ア

【解説】盃はお酒を飲む時に使うもので、お酒に酔うことと恋に酔うことをかけている。その恋は、「君が酌んでくれたから」ということから、「君のおかげで恋に酔いしれている」という意味になる。

## 問15 イ

【解説】「おのづから」は、「自然に」ということ。

## 問16 イ

【解説】細道は、「われ」と「君」が何度も林檎畑の樹の下で会うために踏んできたことで自然にできた道であることを分かったうえで、いたずらっぽく「君」が「われ」に問いかけている。

## 問17 (例) われと君が、林檎畑で会うために何度も通って出来た

【解説】「われと君が会うため」という内容と、「林檎畑に通った」という内容が含まれているかがポイント。

## 問18 イ

【解説】自分たちが会うために踏んできたことで道が自然とできたことを、わざといたずらっぽく問いかける「君」の様子からは、二人で過ごしてきた時を愛おしく思っていることが読み取れる。

## 問19 三

【解説】「たのしき恋の盃を 君が情に酌みしかな」で「われ」の恋心を「君」が受け入れてくれたことを表現しているため、「われ」の恋が実ったことを表現しているものとして第三連がふさわしい。

## 問20 わがころなきためいき



- 問 2 1
- 【ア】 そ
  - 【ウ】 うすくれなゐ
  - 【オ】 なさけ
  - 【キ】 ばたけ
  - 【ケ】 た

- 【イ】 はなくし
- 【エ】 さかづき
- 【カ】 く
- 【ク】 こ

- 問 2 2
- 【サ】 思いけり
  - 【ス】 人こい
  - 【ソ】 問いたまう

- 【シ】 あたえしは
- 【セ】 おのずから

【解説】 ソの「問いたまう」について、多くの学校では、「たまふ」は「たまう」と現代仮名遣いに直すよう指導するようである。

テストでも「たまう」が正解とされるようである。

表記は「たまう」が正しいが、発音するときは「たもう」になるので、ひっかけ問題として注意が必要な場合がある。

※資料によっては「たもう」と直しているものもある。これが表記のことなのか、発音のことなのかは確認ができていない。

(例：浜島書店出版の国語便覧「初恋」についての解説ページ)。

